

## 令和2年度第1回誰もが共に暮らすための市民会議 主な意見（書面開催）

日時：令和2年7月6日～7月17日（協議期間）

## 配布資料

- 1 資料 令和2年度 第1回誰もが共に暮らすための市民会議資料
- 2 参考資料① 令和元年度達成状況報告書（案）
- 3 参考資料② さいたま市障害者総合支援計画2021～2023（令和3～5年度）素案（案）の概要について
- 4 参考資料③ 令和元年度第3回（書面会議）議事録
- 5 参考資料④ 令和元年度第3回（書面会議）アンケート結果
- 6 意見シート
- 7 アンケート
- 8 ご案内 さいたま市合理的配慮の提供支援に係る補助金について

## 1. 主な意見

## 1 「令和元年度達成状況報告書（案）」を受けての感想や課題と感ずることについて

## 【障害に対する理解・啓発について】（権利擁護含む）

- ・事業番号2（「誰もが共に暮らすための市民会議」の実施）について、参加者数の増減も重要な成果指標と考えるので、掲載を検討してほしい。
- ・事業番号3（「障害者週間」市民のつどいの実施）については、会場が浦和駅前ということで、障害のない市民への周知ができたと感じた。今後も同じ場所で開催することで、益々周知されると思う。
- ・事業番号13（成年後見制度の利用の促進）について、指標と評価に問題がある。成年後見制度を利用した（利用している）障害者の方の実績が、アンケート実施による「利用したいと希望している方」の何割に達しているのかを見る必要があると思う。
- ・以前、市民会議に参加した際、グループの多くの方が障害者に対する理解は子どものころから学ぶとよいと話していた。令和元年度には小学生の授業で取り扱われたようだが、人権問題にも関連することであるため、授業数を増やすなどの取組が必要。また、授業の感想をもとに、啓発内容の見直しも必要。

## 【福祉サービスについて】

- ・福祉タクシー券の所得制限については、住民税納付の収入ではタクシー利用の負担感は重く、所得制限は不適切と感じる。
- ・それぞれのライフステージや生活シーンで困ったときに相談できる場所や、いろいろなニーズに応えられるサービスが網羅されていて、活用されていると感じた。

## 参考資料 2

- ・サービスの種類が多く、様々な機関が担っているため、手続きや利用可能なサービスの把握が大変でわかりにくさもあると感じた。
- ・障害福祉分野に関わる人材確保と定着支援の施策が弱いように思う。有資格者の再雇用や一般企業退職者再雇用などに向け、リモートによる研修などを実施してほしい。

### 【相談・支援について】

- ・事業番号 3 3（高次脳機能障害の普及啓発と相談支援）について、「地域相談会」は、初参加のみで終わっている者は何か満足できたのか、また、2回目以降も引き続き参加している者の人数も成果指標とすべきなのでは。
- ・事業番号 4 6（障害者相談員の設置）について、電話や役所までの外出が困難な障害者こそ対応すべきなので、訪問相談を試行すべきではないか。
- ・事業番号 4 7（聴覚障害者相談員の設置）について、聴覚障害者相談員の設置人数が少なかつたことも影響があるのではないかと感じる。周知とともに、相談員の確保も課題であると感じる。
- ・事業番号 6 2（障害者総合支援センターを拠点とした就労支援の充実）について、新しい事業として「就労を希望する視覚障害者を、国や県等の専門機関につなぐ支援」を創設し、評価指標を「相談件数に対してどれだけ確実に専門機関につないだか」に設定する必要がある。

### 【情報の取得・コミュニケーション支援について】

- ・事業番号 6 0（選挙時の情報提供）について、「障害者のしおり」「市報さいたま」「選挙公報の音声版」の存在や入手方法が、必要としている当事者にまだまだ届いていないと強く感じている。
- ・事業番号 4 9（手話講習会の開催）について、前年度よりも参加者数が増加したことは評価できるが、将来的に手話通訳者として聴覚障害者の社会参画を支援できる若い年齢層の方が多数参加されているのか、疑問に感じる。
- ・事業番号 5 0（要約筆記者養成講習会の開催）について、一般市民は要約筆記という言葉すら知らないと思うため、講習会の周知以前に、要約筆記とは何かの周知が必要だと思う。
- ・「さいたま市の障害福祉ガイド」は非常に使いづらい。自分がどのような支援を受けられるのかがわかりにくい。インターネットを使えば、障害や年齢をキーにした検索機能などの充実も図れるので、もっと IT を活用すべき。

### 【障害児支援について】

- ・事業番号 1 9（多様な学びの場の充実）について、今後、通学の難しい子ども達の訪問教育や、特別支援学校卒業後の生涯学習等の充実に向けた取組にも広がるとよい。

### 【危機対策について】

- ・事業番号 8 4（防災知識等の普及・啓発）について、A 評価となっているが、まだ広く普及されているとは感じない。
- ・事業番号 8 6（避難行動要支援者名簿の活用）について、100パーセントと思っていたので驚いた。
- ・水害や感染症に対して、災害弱者である障害者向けの対策をしてほしい。

### 【その他】

- ・事業番号 5 1（市職員に対する手話等の研修の実施）について、目標よりも参加人数は少ないが、参加してくれる人がいて嬉しい。ただ、窓口で職員に手話で対応してもらったという話は聞かないので、もったいないと思う。
- ・事業番号 5 2（高次脳機能障害に関する職員研修の実施）について、成果指標としているアンケートの満足度が低すぎる。これでは、満足しなくても評価が高くなってしまいが、現実にはそれほど理解されていないので、更なる向上が必要。
- ・事業番号 5 6（地域のネットワークを活用した人材育成）について、中央区や岩槻区のようなネットワーク会議が各区に広がり、区ごとの横の連携にもつながるとよい。
- ・事業番号 7 2（公園リフレッシュ事業の実施）について、公共のトイレはユニバーサルデザインの観点から JIS 規格化されているため、みんなのトイレだけでなく、すべてのトイレを JIS 規格に準拠させるべき。
- ・評価結果が B 及び C の事業については、対策（改善策）を記載することが望ましいと思う。
- ・総合評価を見て C や D が少ないことは喜ばしいことだが、評価に関しては外部機関の評価を望む。そもそも目標数値の設定が簡単なものだったのではないか。

2. 1に記載したことについて、ご自身が課題と感じていることを解決するためには、どのような取組や施策が必要だと思うか。

### 【障害に対する理解・啓発について】（権利擁護含む）

- ・事業番号 1 3（成年後見制度の利用の促進）について、制度の利用希望者、つまり潜在的なニーズを掘り起こす作業が必要。必要と感じていない場合は、その理由を分析し、制度の改善につなげていくべき。
- ・子どもたちへの障害者理解を深めるために、動画で発信したり、視聴してポイントがたまると携帯で使えるスタンプをプレゼントするなどの取組はどうか。
- ・市民に対する広報活動が重点だと思います。彩の国だより（県）、市報、区報、テレ玉、NACK 5 などマス媒体の活用。

### 【福祉サービスについて】

- ・ガイドヘルパーの利用に当たり、外出時に公共交通機関を利用すると乗り換え等により利用時間がかさむ。そのため有償輸送を利用すると利用者の経済的負担が大きいが、この負担を行政が担えば、利用時間の縮減につなげられるのではないか。

### 【相談・支援について】

## 参考資料 2

- ・事業番号 4 2（障害者生活支援センターの充実）及び 5 6（地域のネットワークを活用した人材育成）について、地域自立支援協議会と相談支援機関、障害者施設、さいたま市障害関係部署（支援課含む）との情報交換の場を作ること。
- ・事業番号 6 2（障害者総合支援センターを拠点とした週おる支援の充実）について、特に中途視覚障害者への支援体制を強化するため、国立リハビリテーションセンターや労働局と連携した支援を実施してほしい。
- ・就労移行支援事業所を利用して就労に結び付かなかつた場合は、行政機関による就職活動のケアをしていくシステムが構築されてもよいのではないかと。

### 【情報の取得・コミュニケーション支援について】

- ・事業番号 4 9（手話講習会の開催）について、若い年齢層に手話講習会について知ってもらうための工夫が必要。高校や専門学校、公民館や文化センターなどにチラシを置く。または手話教室のような講座（手話だけでなく聴覚障害者について知ってもらえる講座）を開設し、出前講座として行ってはどうか。
- ・「さいたま市の障害福祉ガイド」は非常に使いづらい。インターネットを使用すれば、障害や年齢をキーにした検索機能等の充実が図れると思われる。

### 【危機対策について】

- ・事業番号 8 4（防災知識等の普及・啓発）について、聴覚障害者の中には文章が苦手な高齢者も多数いるため、防災知識の一般的なパンフレットを作成して終わりということではなく、文章が苦手な人のためにはどうしたらいいのか等、当事者の意見を踏まえて取り組んでほしい。
- ・水害などの災害から守るため、高いところや高い階に障害者を住まわせるよう支援してほしい。

### 【その他】

- ・研修などは、実施すればよいとするのではなく、その後どう変わったか、向上したかが大事だと思う。

## 3. 次期障害者総合支援計画で、市に取り組んでほしいことはどのようなことか。

### 【障害に対する理解・啓発について】（権利擁護含む）

- ・色々な生きにくさを感じている人がいる、それぞれに困り感が違うということを理解するために正しい知識を広く啓発する活動。
- ・誰もが権利の主体として安心して生活できる社会の実現を目指す為には、障害者の就労支援は欠かせないテーマ。「障害者総合支援センターを拠点とした就労支援の充実化」を今まで以上のサポート体制の強化を図り、より具体的に障害者にマッチしたサービスの提供、提案を継続していくことに取り組んでほしい。
- ・障害主流化の観点やプロアクティブな活動の必要性からも、障害のある人による普通小中学校への出前講座（障害、共生、バリアフリー／ユニバーサルデザインなど）の実施に取り組んでほしい。

### 【福祉サービスについて】

- ・自ら車やバイク、自転車を運転するという手段が取れない視覚障害者にとって、タクシ

## 参考資料 2

ーは貴重な、なくてはならない移動手段である。視覚障害者や公共交通機関しか移動手段がない障害者には、福祉タクシー利用料金助成を全員に復活するよう改定を求める。

- ・視覚障害者に対して、代読代筆の支援を福祉サービスの必須の事業として取り組んでほしい。またその支援者の養成を行ってほしい。
- ・障害者の就労と自立支援のための生活費を援助してほしい。
- ・障害者が災害に強い住居・住宅に住めるよう市が資金等を補助する。
- ・障害者、特に基礎疾患を持つ障害者へ早期に感染症検査を行うための予算の割り当てと保健所の機能充実。

### 【相談・支援について】

- ・ゲーム依存も重大なる障害なので、実態調査をしてほしい。家庭・家族崩壊となる。こうした相談窓口と共に専門相談員を充実してほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症に感染した場合、障害者は医療機関で受け入れてくれる体制を作してほしい。

### 【情報の取得・コミュニケーション支援について】

- ・「アクセシビリティ」という表現は、まだまだ認知度が低いので、注釈を入れるか、一般市民がわかりやすい表現を再考してほしい。
- ・各障害別、ステージ別の障害福祉サービスガイドブックの作成。

### 【障害児支援について】

- ・高次脳機能障害、発達障害等の「見えない障害」は、誰にも気づかれにくいものであるため、乳幼児健康診査などをきっかけとして早期発見すべきである。また、気づく場として想定される保育園、幼稚園、小中学校の職員には、最低でも研修を受けさせるべきだと思う。

### 【危機対策について】

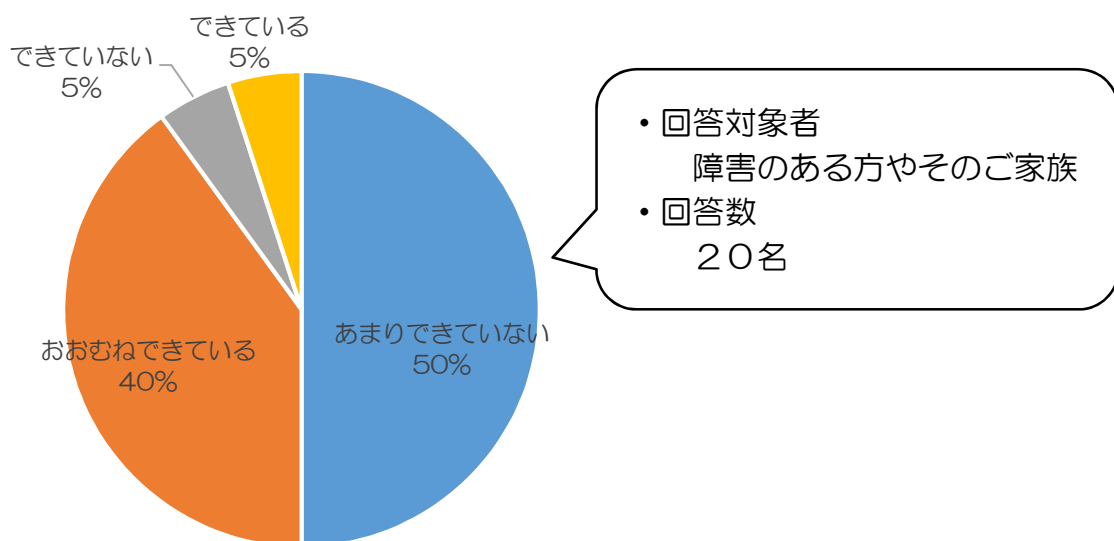
- ・災害や感染症の発生など、有事の際に、それぞれの障害特性に合わせた情報発信をしてほしい。
- ・「感染症対策と新しい生活様式について」計画に入れてほしい。
- ・防災対策の推進・施策は、今回の新型コロナ感染拡大の対策とは分けて考えてほしい。この感染症対策には、障害者問題（保護者が罹患したら障害者を誰が支えるのか…等）が大きく関わるため、今後の計画に反映させていくべきでは？と思う。
- ・今は感染症や災害など、障害のある人が家族が、厳しい生活を送っている。避難所等での障害者の配慮をきちんと取り組んでほしい。

### 【その他】

- ・障害者が望んでいるのは、「当事者の声を聞いて」を実行にする。それぞれの課がテーマに沿って計画・実行していくが、全体が一目でわかる流れの構図や人員配置と総合窓口の設置に取り組んでほしい。

4. 今、自らが望む形で生活ができているか。

今、自らが望む形で生活できているか？



【主な意見】

(1) あまりできていない

- ・A型事業所に通っているが、どうそこから進めば良いかわからない
- ・世間では、視覚障害者イコール全盲という認識がまだまだ強く、ロービジョンが認知されていない。このため、目つきが悪いと不審者扱いされたり、障害者と認識されず、必要な支援を受けられないこともまだまだ多い。一方で宿泊施設等では見えないことで宿泊を敬遠されるケースも未だ発生している。社会におけるロービジョンの正しい理解が必要。
- ・一般市民の助けと接触が感じられないため
- ・経済的余裕がない。B型作業所で月 5000 円くらいでどのように生きていくのですか？ 親亡き後どのように生きる方法があるのか？ いつも考えて不安に親も子も絶望感におそわれます。

(2) おおむねできていない

- ・会社員として勤務もできており、在宅勤務を含めて何とか対応できているが、新型コロナでの変化も激しく、不安な面もある。
- ・日常の生活・平時についてはおおむね望む形で生活できていますが、大規模災害を見たことはあってもさいたま市で経験していないため、不安・心配なことは尽きません。今、現在、障害者・家族が新型コロナに感染したらどうなる？と考えると不安で眠れない日々を送っているという状況です。

(3) できていない

- ・就職活動が難航し、無職の状態が長期化したため、経済的に自立することが不可能な状況にあるため。

(4) できている

- ・当事者の独立プラス職業確立できている。